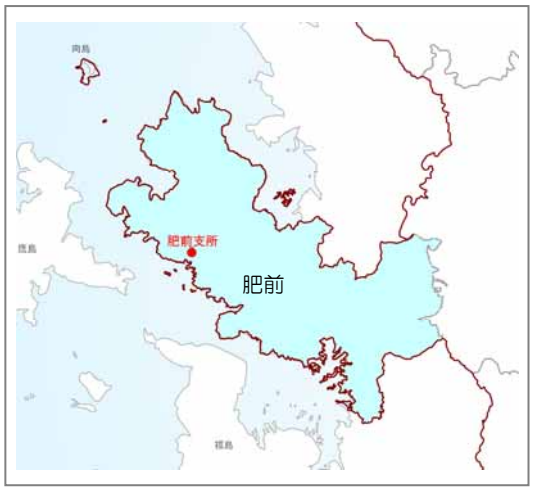
第５章　西部（肥前）地域のまちづくり構想

５－１　西部地域の概況と課題

（１）　西部地域の概況

（自然環境、歴史・文化的概況）



○ 旧肥前町からなる西部地域は、本市の西部に位置し、三方を玄海国定公園に指定されたリアス式海岸に囲まれた半島状の地域です。沿岸部は自然海岸が、背後は棚田が広がるなど、農村・漁村の風情が多く残された地域です。

○ 地理的、地形的条件から、古くから大陸との交流も行われており、遣唐使、遣隋使の航路筋にもなっていました。

○ 弘法大師（空海）は田野浦（高串）から渡唐したと伝えられており、「いろは島」の名称も弘法大師がその絶景に感じて命名したなど、様々な伝説が残っています。

○ 全体的に台地状の地形をしているものの、新木場、万賀里川などの東側一帯は起伏の激しい地形であり、国道 204 号が開通されるまでは難所となっていました。

○ 大きな河川に恵まれず、7，8 月の灌漑期の降水量も少ないため干害に悩まされてきましたが、1973年から行われた国営上場土地改良事業等により、松浦川からの揚水による農業用水の安定供給が可能となりました。

（社会的概況）

○ 人口は 8,660 人と（市全体の約 6.6%）、年々減少傾向にあります。

○ 65 歳以上の高齢者が３割弱と市平均よりも５ポイントほど高くなっています。

○ 第一次産業人口の割合が約 3 割と市平均の 2 倍となっていますが、従事者の減少・高齢化、それによる耕作放棄地の増加が懸念されています。

○ 昼夜間人口比率、自市内就業・就学率ともに県平均よりも低く「住機能型」に分類されます。

○ 観光都市唐津の中でも観光客数は年間 30 万人程度と少なく、平成 11 年をピークに近年は減少傾向にありまが、長崎県松浦市鷹島への「鷹島肥前大橋」の開通を契機に、県域を越えた交流人口の取り込みが重要となっています。

○ 内陸部では、さがほのか、葉たばこ、たまねぎ、納所ごぼう等の畑作および佐賀牛等の畜産が行なわれています。また、沿岸部には多数の漁港が存在し、牡蠣の養殖等も行われています。

○ 近年は風力発電などの自然エネルギー基地として環境共生型社会へ向けた取り組みが進められています。

○ 国道 204 号の歩道未整備、汚水処理普及率約 27.9%、新木場、切木地区等で上水道未普及など、市内でも公共施設の整備水準が低い状況です。

○ 西部地域は、全域が都市計画区域外となっています。

■西部地域の基礎データ

※内訳は年齢不詳、分類不詳含まず

○人口・世帯数

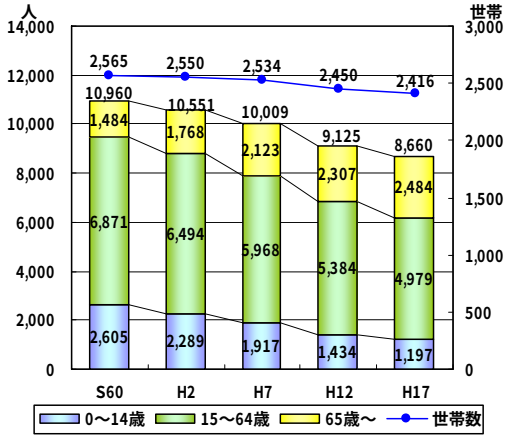


図　人口・世帯数の推移（西部地域）

資料：国勢調査

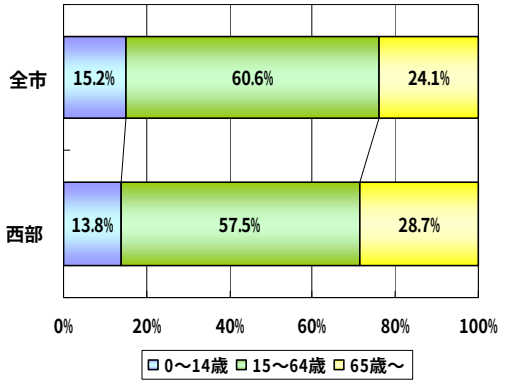


図　年齢別人口構成（西部地域）

資料：H17 年国勢調査

○産業指標

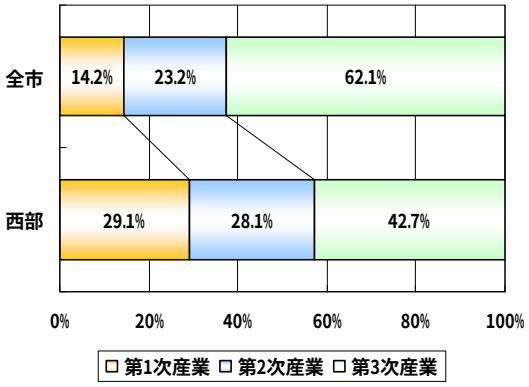


図　産業別就業人口割合（西部地域）

資料：H17 年国勢調査

○観光動向

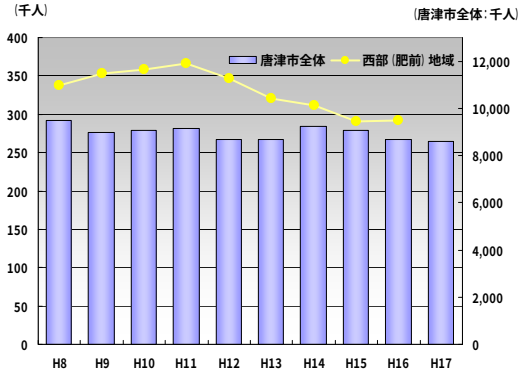


図　観光客数の推移（西部地域）

資料：観光動向調査

○都市性格分類

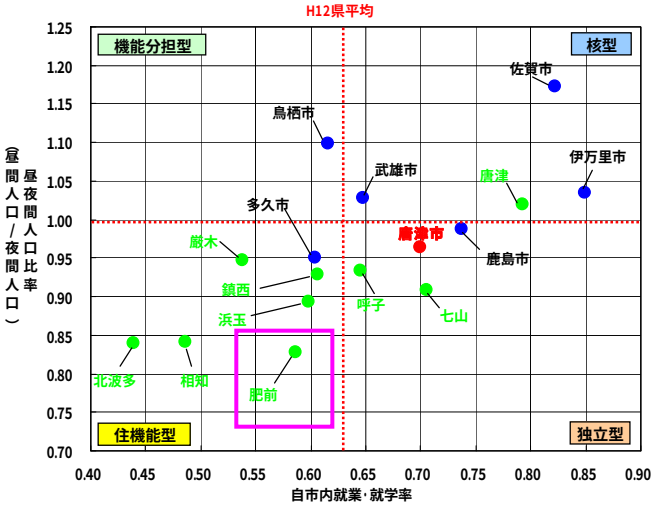


図　県内主要都市の自市内就業・就学率、昼夜間人口比率

資料：H12 年国勢調査

○土地利用

表　土地利用現況

区分	面積（ha）	割合
田	910	19.5%
畑	968	20.8%
山林	1,727	37.0%
水面	94	2.0%
その他の自然地	504	10.8%
住宅用地	172	3.7%
商業用地	9	0.2%
工業用地	11	0.2%
公共空地	6	0.1%
公益施設用地	27	0.6%
道路用地	166	3.6%
交通施設用地	1	0.0%
その他の都市的土地利用	71	1.5%
合計	4,665	100.0%

資料：平成 18 年都市計画基礎調査

■西部地域の住民意向

○市民アンケート調査結果（Ｈ１９）

○ 地域の住環境については、「自然・緑の豊かさ、美しさ」や「住宅地としての静けさ、雰囲気」の満足度が高く、「働く場、就業機会の充実度」、「公共交通の利便性」、「子どもの遊び場や公園」、「生活排水対策」等の公共施設整備に対する不満度が高くなっています。市全体と比べると、道路・交通施設や公園、排水対策に対する不満度が高く、公共施設整備水準の向上が求められています。

○ 地域の将来像としては、「ブランド性の高い『食料生産地』」および「豊かな自然を守り、活かした『環境にやさしいまち』」としての役割が期待されています。

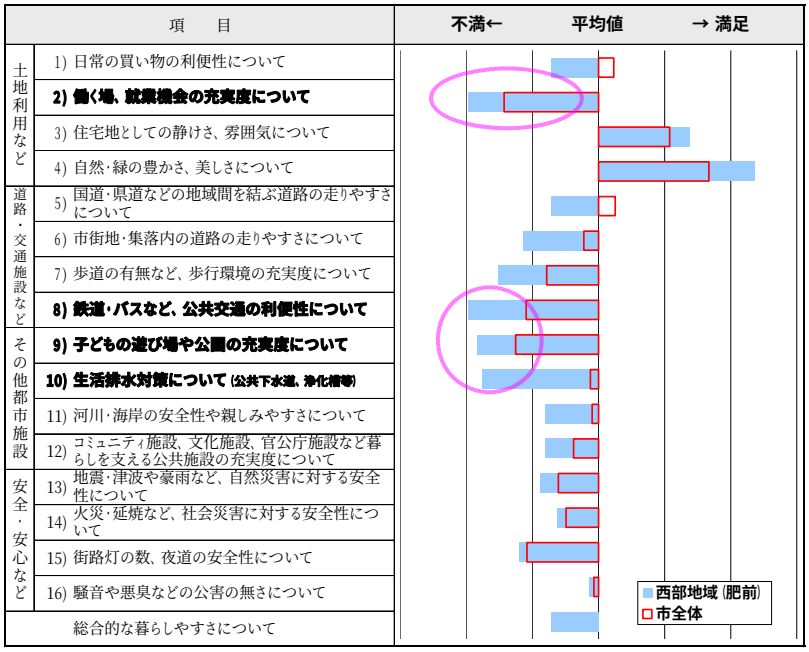


図　お住まいの地域の住環境についての満足度（西部地域）

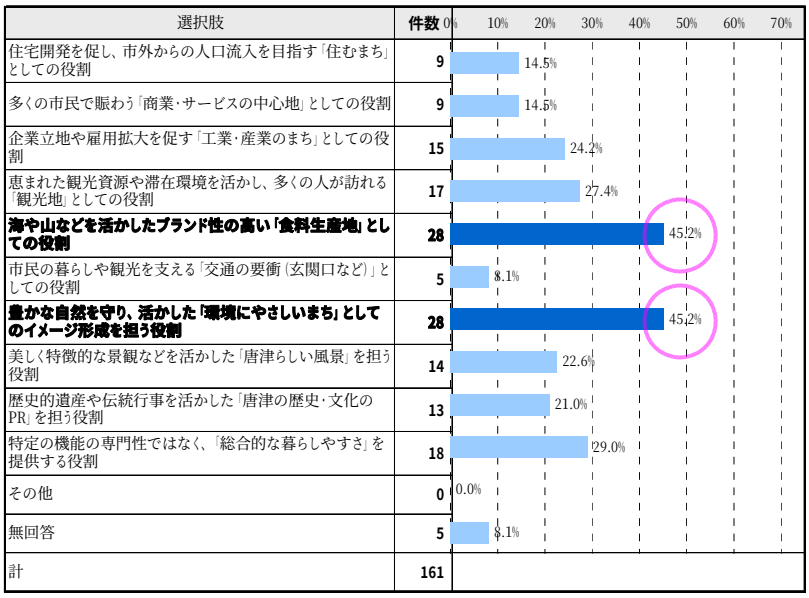


図　お住まいの地域の役割について（西部地域）

（2） 西部地域に求められている役割

全体構想で設定した将来都市構造の実現、および先導的まちづくり構想の展開のために、本地域に求められている役割を以下に整理します。

■いろは島などの美しい自然景観と農水産物の豊富な地域として、都市・農漁村交流により来訪者の回遊を促し、本市全体の観光周遊ルートの構築を推進する役割

本地域には、いろは島に代表される玄海国定公園に指定された美しい自然景観、沖合に浮かぶ長崎県松浦市鷹島町へと架かる「鷹島肥前大橋」などのシンボル景観、「ふれあい自然塾ひぜん」や「花と冒険の島」などの体験型施設など、景観・観光・交流資源に恵まれた地域です。また、内陸部の上場台地では、さがほのか、葉たばこ、たまねぎ、納所ごぼう、佐賀牛等の畜産、沿岸部では牡蠣の養殖など、豊富な農水産物にも恵まれた地域です。

しかし一方では、西端の半島という地理的に不利な条件から、観光客は呼子・鎮西止まりで本地域まで足を運んでもらえない状況にあります。

人口増加の見込めない現在において、地域活力向上のためには交流人口の増加が重要であり、そのためにも本地域の観光・交流資源の魅力を高めることにより、西側における都市・農漁村交流拠点を確立させ、本市全体の観光周遊ルート構築を推進することが期待されています。

図 西部地域 将来都市構造図

（３） 西部地域におけるまちづくりの主要課題

本地域の概況や求められている役割等を踏まえ、本地域におけるまちづくりの主要課題を以下に整理します。

■主要課題１　玄海国定公園に指定された沿岸部など美しい自然環境・景観の保全が必要です。

(→重点方針1，2)

本地域は、三方を玄海国定公園に指定されたリアス式海岸の美しい地形に囲まれた半島状の地域であり、無数の島々からなるいろは島や大浦の棚田をはじめ美しい棚田などの優れた自然景観・農村景観が存在する地域です。

この美しい半島の自然環境・景観は、後世に残していくべき価値ある地域資源として、また、本市西側へと観光客を流入させるための資源として維持・保全していく必要があります。

▲いろは島（写真：唐津ロケナビ）

■主要課題２　既存の観光・交流資源・施設の活用、および農漁業との連携による地域振興が必要です。

(→重点方針1，2)

本地域には、「いろは島」や「大浦の棚田」などの美しい景観資源、「花と冒険の島」や「ぼたんと緑の丘」、「遠見番所公園」などの地域の特徴を活かした公園、「ふれあい自然塾ひぜん」などの体験型施設など、豊富な観光・交流資源が存在していますが、案内標示の未整備や施設の老朽化などにより十分に活用されていない状況です。

一方、周辺の上場台地では、さがほのか、タマネギ、佐賀牛などの農畜産物が、沿岸部の漁港では牡蠣などの海産物が豊富であるなど、市内でも一次産業が盛んな地域であり、今後のさらなる発展が期待されています。

これからの地域づくりにおいては、これら観光・交流資源と農漁業との連携による魅力発信が不可欠であり、特に、鷹島肥前大橋開通による通過観光客を本地域に引き留め、地域振興に結びつけていくことが必要となっています。

▲ふれあい自然塾ひぜん
（写真：同リーフレット）

■主要課題３　中央・北部地域方面等との観光・交流軸となる道路の整備や、回遊性を促す案内標示の充実などを図る必要があります。

（→重点方針1，2，3）

本市全体の観光周遊ルートを構築し、地域および市全体の活力を向上させるためには、西の観光・交流拠点としての位置づけを強化していく必要があります。そのためには、本地域の美しい自然景観や周辺の観光・交流資源等に磨きをかけるとともに、周遊を促す道路の整備や案内標示の充実などが重要です。

本地域においては、北部地域や中央地域からの観光客を呼び込むための都市間・地域間を連絡する国道 204 号などの幹線道路網と、地域内に点在する観光・交流資源までのアクセスルートとなる県道納所入野線などの地域内道路網の２段階の道路網強化を図る必要があります。

特に、長崎県松浦市鷹島に架かる「鷹島肥前大橋」が開通したことからも、県域を越えた観光・交流が期待されていることから、観光周遊ルートの主軸となる国道 204 号の早急な改良が必要です。

▲歩道がない国道２０４号（新木場地区）

■主要課題４　生活を支える地域生活拠点の維持・再生と、道路改良や公共交通の充実、上下水道整備など、安全・安心・快適な生活空間整備が必要です。

（→重点方針1，2，3）

本地域に求められている役割を実現するためにクリアすべき主要課題として先の３つを示したが、それと同様に、住み慣れた地域で今後も永続的に生活していくための環境づくりも生活者の視点からは重要な課題です。

本地域においては、市全体に比べて生活排水対策の遅れや集落内道路、歩行環境の整備不足など公共施設の整備水準が低い状態にあることから、生活に密着した公共施設整備が重要な課題となっています。その中でも特に、通学路にもなっている国道 204 号については歩道未設置箇所が多く、鷹島肥前大橋開通による交通量増加を考えると早急に対応していく必要があります。

また、地域生活を支える地域生活拠点についても、今後も安定したサービスを提供し続けるための取り組みが必要です。

▲地域生活拠点周辺（入野地区）

５－２　西部地域におけるまちづくりの目標と方針

前項までの「西部地域に求められている役割」、「西部地域における主要課題」を踏まえ、西部地域のまちづくりをどのように進めていくべきかを「まちづくりの目標」と「まちづくり方針」を設定して展開していきます。

（１） 西部地域のまちづくりの目標

本地域は、「いろは島」に代表される美しい自然環境と、さがほのか、佐賀牛、牡蠣などの農畜水産物が豊富に存在する魅力あふれる地域であり、鷹島肥前大橋開通を契機にこれら地域資源を活用した都市・農漁村交流が期待されています。

本地域は都市計画区域外であるため、都市計画制度によるまちづくりではなく、こうした地域の魅力を活用した「都市・農漁村交流による本市全体の観光周遊ルートの構築」など、本地域に求められている役割等を踏まえたまちづくりを進めていきます。

そのようなことから、本地域においては、永続的に生活していくための安全・安心な暮らしの場づくりはもちろんのこと、いろは島をはじめ美しい地形の広がる沿岸部や、大浦の棚田など地域内に点在する観光・交流資源の保全・活用、また、基幹産業である農業・漁業などの一次産業の振興を図るとともに、それらの連携による都市・農漁村交流の促進により地域振興を進めていくことを目指し、以下を本地域のまちづくりの目標とします。

■西部地域のまちづくりの目標

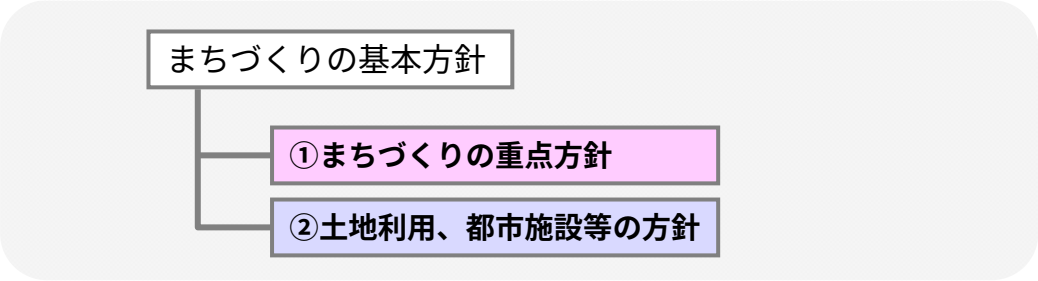
いろは島、大浦の棚田、鷹島肥前大橋などの
海と里の資源を活かした都市・農漁村交流の郷づくり

（2） 西部地域のまちづくりの基本方針

まちづくりの目標を実現するためのまちづくりの基本方針を整理します。

まちづくりの基本方針では、地域の特性や課題、先導的まちづくり構想との関係等を踏まえ、特に重点的に取り組むべきものを「①まちづくりの重点方針」として整理します。また、土地利用や都市施設などの基本的なまちづくりの方針を「②土地利用、都市施設等の方針」として整理します。

なお、生活排水対策など都市施設等の分野の方針でも、地域において重点的に取り組むべきものについては「①まちづくりの重点方針」にて整理します。



①まちづくりの重点方針

西部地域のまちづくりにおいて重点的に取り組んでいくべき方針を「①まちづくりの重点方針」として以下に整理します。

重点方針１　自然公園法・景観計画等の活用による玄海国定公園に指定された美しい景観の保全を図ります。

玄海国定公園に指定された変化に富んだ美しい海岸域や点在する棚田などの自然環境・景観について、各種法令等の活用により保全を図ります。

重点方針２　いろは島、大浦の棚田、鷹島肥前大橋などの観光・交流資源と、佐賀牛や牡蠣などの食を活かした都市・農漁村交流促進により観光周遊ルートの確立を目指します。

いろは島に代表される玄海国定公園に指定された美しい沿岸域や、佐賀牛、さがほのか、水産物などの豊かな食材、および各地に点在する観光・交流資源について、鷹島肥前大橋開通のインパクトとの相乗効果も含めて都市・農漁村交流を促進し、観光周遊ルートの確立を目指します。

重点方針３　生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、道路改良や生活排水対策など、安全・安心・快適に生活できる生活環境づくりを推進します。

歩行者・自動車ともに安心して利用できる道路網の整備、地域内や地域間を連絡する公共交通の充実、および生活排水対策など、地域で永続的に住み続けることのできる安全・快適な住環境づくりを進めます。

重点方針１　自然公園法・景観計画等の活用による玄海国定公園に指定された美しい自然環境・景観の保全を図ります。

（←主要課題1，2，3，4）

玄海国定公園に指定された変化に富んだ美しい海岸域や点在する棚田などの自然環境・景観について、各種法令等の活用により保全を図ります。

①玄海国定公園に指定された美しい海岸域等の保全を図ります。

○ 玄海国定公園に指定されている美しい海岸域については、後世に受け継ぐべき貴重な資源として、自然公園法等の的確な運用によりその保全を図ります。

○ 玄海国定公園内の「いろは島」（景観拠点）、背後の斜面に広がる棚田、上場台地の優良農地、仮屋湾沿いの風力発電の風車など、地域固有の美しい自然景観と特徴ある人の手により作られた景観とが共存しており、今後も地域固有の景観資源として保全を図ります。

②景観計画等との連携による景観保全を推進します。

○ 半島という本地域の特性を活かし、海岸の眺望性と魅力を活かした景観形成を図るため、景観計画との連携のもと、屋外広告物規制の権限委譲検討や具体的ガイドラインの作成など、景観の保全・創出に向けた取り組みを市民協働により推進します。

○ 鷹島肥前大橋の開通を契機として、地域活力創造のためにも県域を越えて長崎県松浦市鷹島町と連携した景観づくりを検討します。

○ 今後も地域独特の風景を存続させていくためにも、市民協働による景観の保全・創出に向けた取り組みを検討していきます。

▲いろは島（写真：唐津ロケナビ）

▲鷹島肥前大橋（写真：唐津市 HP）

③先進事例を参考とした棚田保全や耕作放棄地対策等を促進します。

○ 大浦の棚田をはじめ、本地域内に多く見られる棚田については、治山・治水等の環境保全機能の維持、および美しい景観資源としても価値ある資源であることから、営農環境の整備や担い手育成などによりその保全を図ります。

○ 特に、取り組みの主体としては、南部地域の「蕨野の棚田」における取り組み手法を参考に、営農者だけでなく地域住民や都市部住民、大学等との連携など、市民協働による棚田保全の取り組みを進めます。

○ 遊休農地・耕作放棄地などについては、景観保全や環境保全の観点からも新たな活用や元の自然に戻すなど様々な取り組みを関係機関や地域住民との連携・協働により検討します。

●コラム　「蕨野の棚田」での取り組み手法を参考とした市民協働による棚田の維持・保全・活用

- 西部地域には、全国棚田 100 選に認定された大浦の棚田をはじめ、多数の棚田が存在し、玄界灘に沈む夕日とのコントラストなど本地域固有の美しい景観を形成しています。
- 棚田のある風景を見に観光客も訪れており、本地域は比較的良好な棚田が守られているものの、農業従事者の高齢化や後継者不足などから、今後においては耕作放棄地と化した棚田が増加することが懸念されています。
- 本地域の棚田は、食糧生産や土砂災害防止の役割とともに、農業体験や美しい景観資源など都市部住民をひきつける役割も担っています。
- 棚田の持つ多様な機能を今後も維持・保全し、地域活力向上に活用していくためにも、耕作放棄地とならないための取り組みを検討していく必要があります。
- そのため、農業従事者だけでなく、地域住民や都市部住民、大学なども巻き込んだ「蕨野の棚田」の取組み手法を参考として、関係団体等との連携を図りながら本地域にあったスタイルでの棚田の維持・保全・活用方策を地域全体で検討していきます。

▲大浦の棚田（写真：唐津ロケナビ）

重点方針２　いろは島、大浦の棚田、鷹島肥前大橋などの観光・交流資源と、佐賀牛や牡蠣などの食を活かした都市・農漁村交流促進により観光周遊ルートの確立を目指します。

（←主要課題1，2，3，4）

いろは島に代表される玄海国定公園に指定された美しい沿岸域や、佐賀牛、さがほのか、水産物などの豊かな食材、および各地に点在する観光・交流資源について、鷹島肥前大橋開通のインパクトとの相乗効果も含めて都市・農漁村交流を促進し、観光周遊ルートの確立を目指します。

①観光・交流資源の機能充実による観光・交流の場としての位置づけ強化を図ります。

○　「花と冒険の島」、「ぼたんと緑の丘」、「遠見番所公園」などは、本地域の豊かな自然や美しい景観を堪能できる観光・交流施設であることから、計画的な維持管理、機能更新を図り、本地域の観光・交流の場としての位置づけを強化します。

○　特に、遠見番所公園については、地域住民の憩いの場としてだけでなく玄海国定公園をパノラマで楽しむことのできる観光スポットとしても広くＰＲするとともに、アクセス道路の整備や案内板設置などを進めます。

○　大浦の棚田に代表される棚田をはじめとした地域固有の景観要素については、眺望点となる場の整備や案内標示などの充実による新たな観光・交流スポットとしての整備を検討します。また、風力発電の風車は、個性的景観である一方、景観阻害を危惧する声もあることから、これら状況に配慮した取り組みを検討します。

②エコツーリズムなどの体験型観光や、さがほのか、佐賀牛、牡蠣などの農畜水産物の活用による都市・農漁村交流を促進します。

○　「ふれあい自然塾ひぜん」は、本地域の最大の魅力である海・山・川の自然をフィールドとした体験型観光や環境学習の施設であるため、計画的な維持管理、機能更新を図るとともに、自然体験と癒しの場として積極的な活用を促進します。

○　基幹産業である農・漁業の一次産業を活かし、美しく豊かな自然環境を活かしたグリーンツーリズム・ブルーツーリズムなどのエコツーリズムによる「体験型観光」とも連携を図るなど、産業と観光の連携による都市農漁村交流を促進します。

○　夏のシーカヤックや魚釣り、冬の牡蠣打ち体験や上場台地の農産品の収穫祭など、「食」を絡めた体験活動の場づくりを農漁業従事者や地域住民との連携により検討していきます。

○　上場台地の農産物や沿岸部の海産物については、まちの駅や物産館「ひぜん夢美咲」などの活用により、都市部への出荷だけでなく地域内または市内での販売を行うなど地産地消の取り組みを進めます。

▲いろは島でのシーカヤック体験
（写真：佐賀的大人ツーリズムＨＰ）

③観光周遊ルートの道路改良や案内施設の充実など、観光客の回遊性向上を促進する取り組みを展開します。

○ 本市全体の観光周遊ルートの構築のため、既存の観光・交流資源を磨き上げて魅力を高めることはもちろんのこと、中央地域や北部地域からの観光周遊ルートとなる国道 204 号、地域内での観光周遊ルートとなる県道、市道について、道路線形の整備や案内標示等の充実、計画的な維持管理を図るなど、観光客の回遊性向上を意識した取り組みにより、北部地域や中央地域、伊万里市方面との連携強化を図ります。

○ 特に鷹島肥前大橋の開通により県域を越えた観光・交流が期待されることからも、まちの駅や物産館「ひぜん夢美咲」などを活用し、地域内に点在する観光・交流資源や体験型観光等の情報発信など、もてなし空間の形成による都市・農漁村交流を促進します。

▲遠見番所公園からの眺め

重点方針３　生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、道路改良や生活排水対策など、安全・安心・快適に生活できる生活環境づくりを推進します。

（←主要課題3，4）

歩行者・自動車ともに安心して利用できる道路網の整備、地域内や地域間を連絡する公共交通の充実、および生活排水対策など、地域で永続的に住み続けることのできる安心・安全・快適な住環境づくりを進めます。

①本地域の骨格を形成する国道 204 号、県道星賀港線の安全な道路環境づくりを促進します。

○ 国道 204 号、県道星賀港線は、本地域の骨格を形成し都市中心拠点と連絡するとともに、「玄海原子力発電所」の防災道路としても重要な道路であることから、歪曲した道路線形の改良等を関係機関へ強く働きかけます。

○ また、鷹島肥前大橋開通による交通量増加を踏まえ、通学路を中心に歩道設置を進めるなど、安全な道路環境整備を促進します。

②生活排水対策や集落内環境整備等による安全・安心・快適な住環境づくりを推進します。

○ 本地域は他地域に比べ生活排水対策が遅れていることからも、農・漁業集落排水事業の計画的な整備を進めるとともに、計画区域外の集落については浄化槽設置を促進し、良好な水質環境へ向けた取り組みを進めます。

○ 急傾斜地崩壊危険区域や地すべり危険箇所に指定された沿岸部の集落については、宅地化の抑制や治山事業などの防災対策の推進、空き家除去等によるオープンスペースの確保、建築物の不燃化等の促進など、防災性の高い安全・安心・快適な住環境づくりに努めます。

○ 向島については、利用者の利便性に配慮した離島航路の維持・充実とともに、離島の地域資源の活用・連携等による振興策についても検討します。

③地域生活拠点における生活サービス機能の維持・充実を促進します。

○ 地域生活拠点においては、日常的な買い物や行政手続きなどの基礎的な生活サービス機能の維持・充実を促し、地域生活の拠点性を維持します。

▲地域生活拠点周辺（入野地区）

▲漁村集落（高串地区）（写真：唐津ロケナビ）

④既存集落と地域生活拠点および都市中心拠点間の連絡強化による安心して生活できる環境づくりを推進します。

○ 道路網、公共交通機関の整備により、都市中心拠点と地域生活拠点、地域生活拠点と既存集落、および既存集落間の連絡強化を図り、安心して生活できる住環境づくりを進めます。

- 道路網整備では、（主）肥前呼子線、（一）納所入野線、（一）高串港線、（一）筒井万賀里川線などの集落間、および集落と地域生活拠点とを結ぶ幹線道路について、未改良区間の早期整備を促進します。
- 公共交通機関では、地域住民、特に高齢者や学生等の貴重な生活の足となるバス路線の維持・充実を促進するとともに、コミュニティバスなど地域の実情に合わせた運行方式を地域住民との協働により検討していきます。

②土地利用、都市施設等の方針

「①まちづくりの重点方針」以外の、土地利用や都市施設などの基本的なまちづくりの方針を「②土地利用、都市施設等の方針」として分野別に整理します。

方針１　土地利用に関する方針

①地域生活拠点の特徴に応じた土地利用を推進します。

○ 西部地域の地域生活拠点となる肥前支所や市民会館等の公共公益施設が集積する入野地区については、低層主体の住環境を維持しつつ県道星賀港線沿道においては日常サービスを支える小規模な近隣商業を誘導し、地域の利便性向上を図ります。

②沿岸部等の空き家、耕作放棄地の利活用を検討します。

○ 地域内に点在する空き家や耕作放棄地については、実態調査によりその現状を把握（データベース化）するとともに、情報発信によりＵＪＩターンによる受け皿としての活用や農業活動の場としての提供など、遊休地の有効活用方策を市民協働の上で検討します。

方針２　都市施設（道路・公園・上水道等）に関する方針

①地域生活拠点周辺等における安全な道路環境づくりを推進します。

○ 漁村集落間および漁村集落内を連絡する市道については、地すべり等の危険性の高い箇所から整備を進めるなど、安全な道路環境づくりを推進します。

○ 地域生活拠点や小中学校周辺の通学路については、歩道設置や段差解消、防犯灯設置など、ユニバーサルデザインの理念に基づいた安全な道路環境づくりを推進します。

②花と冒険の島など、地域の特徴ある公園の維持･再生の推進と、身近に利用できる公園づくりを検討します。

○ 地域内では住民が気軽に利用できる身近な公園が少ないことから、中央公園など既存公園の施設更新、誘致圏や防災面に配慮した計画的な公園整備を検討します。

○ いろは島の「花と冒険の島」や満越地区の「ふれあい自然塾ひぜん（事業主体：佐賀県）」は、森・海・棚田をフィールドに自然体験や環境学習ができる地域の特徴ある公園として、今後も遊具等の改修、維持管理を計画的に進めます。

○ 「ぼたんと緑の丘」については、園内の草取りや清掃などをボランティアにより行う「ぼたんと緑の丘サポーター」を導入しており、この取り組みを先導的事例として、地域の身近な公園を地域住民で維持・管理することを前提とした仕組みづくりも検討します。

③水道事業基本計画との連携による上水道未普及地区の早期解消に努めます。

○ 上水道整備については、水道事業基本計画との整合を図り、新木場地区、切木地区など未普及地区の早期解消に努めます。

方針３　集落地整備に関する方針

①安全に安心して生活できる住環境づくりを進めます。

○ 多数の人が利用する小中学校や支所などの公共施設、医療・福祉施設、商業施設等の耐震化を促進するとともに、地域の防災拠点や避難地となる公園・広場の整備、避難路となる生活道路等の整備を推進します。

○ 漁村集落後背地を中心に分布する急傾斜地崩壊危険区域や地すべり危険箇所については、宅地化の抑制や治山事業などの防災対策を推進し、安全な住環境づくりに努めます。

○ 沿岸部に点在する漁村集落等については、災害時に孤立する危険性が高いことからも、道路網ネットワークの整備とともに、災害情報等を伝達する情報通信基盤の有効活用を進めます。

方針４　景観・環境・その他に関する方針

①玄海国定公園に指定された沿岸部などの良好な自然環境を保全します。

○ 玄海国定公園に指定された美しい沿岸域については、本市を代表する景勝地としてだけでなく、多様な生態系を有することから、その自然環境の保全を図ります。

○ 循環型社会の構築に向け、風力発電など自然条件を有効利用したクリーンエネルギーへの取り組みを強化し、自然エネルギーの里づくりを進めます。

②肥前支所の空き室など、既存ストックの有効活用を検討します。

○ 肥前支所等の公共施設の空き室など利用されていない公共施設等については、子育て支援サポートセンター、多世代間交流の生きがいづくりの場、地域づくり団体の活動拠点、あるいは観光客の自然体験などの活動拠点としての活用など、地域活力の向上を図る活用方法について検討します。

③消防団等の地域組織と行政との協働による地域課題解決に向けた仕組みづくりを検討します。

○ 「肥前町文化連盟」、「肥前町国際交流協会」などのまちづくり団体、地域のまつりやコミュニティ活動を担う町内会などの地縁団体、地域の安全を支える消防団など、地域組織と行政との協働により、地域課題解決に向けて取り組んでいく仕組みづくりを検討していきます。

５－３　先導的まちづくり構想のねらいと西部地域での展開方針

ここでは、前項までに整理してきたまちづくりの基本方針について、地域に求められている役割を踏まえつつ、全体構想で描いた将来像を実現するために何から取り組んでいくべきかを整理します。

その視点としては、先導的まちづくり構想の「観光交流」、「景観」、「市民協働」の３つのねらいを踏まえながら展開します。

（１）　先導的まちづくり構想のねらい

本地域における先導的まちづくり構想の３つの柱のねらいを整理します。

◎観光交流まちづくり

鷹島肥前大橋開通を契機に増加した交流人口を、地域内に点在する観光・交流資源や豊かな食材などを活用して今後も定着させるとともに、中央地域や北部地域との連携を図り「玄界灘西海岸周遊ルート」を確立させ、地域内だけでなく市全体の活力を向上させていくことをねらいとします。

◎水と緑の景観まちづくり

景観拠点となるいろは島、大浦の棚田など、本地域の個性ある景観の保全を先導的に取り組むことにより、周辺地域の景観づくり・環境保全へと波及させ、市民の景観に対する取り組みの機運を高め、地域の個性ある景観を保全しつつ、観光・交流資源としても活用していくことをねらいとします。

◎市民協働のまちづくり

南部地域の「蕨野の棚田」の取り組み等を参考とした市民協働の取り組みを図ることにより、地域住民の自発的なまちづくりへの参画を促し、特色あるまちづくりが継続的に実施され、安定した地域の再構築を図ることをねらいとします。

（2） 先導的まちづくり構想を踏まえての展開方針

西部地域におけるまちづくりの展開方針について、求められている役割や何を重点的に取り組むべきか（注力点）を明確にしながら以下に示します。

○西部地域に求められている役割の確認

西部地域においては、美しい自然景観と豊富な農水産物の活用により来訪者の回遊を促し、本市全体の観光周遊ルート構築を推進する役割が求められています。そのため、以下のような展開により西部地域のまちづくりを進めていくことが重要です。

○西部地域における注力点

西部地域のまちづくりを展開するにあたって、その後の展開に拍車をかけるけん引力のあるものから取り組んでいくことが必要です。本地域には、美しい自然景観や豊かな海・里の恵みが豊富に存在しているものの、案内標示や情報発信の不足、駐車場・アクセス道路等の未整備などであまり利用されておらず、本地域に求められている役割を踏まえると、これらへの対応が重要であるといえます。そのため、まずは来訪者の利便性や回遊性の向上を図る環境づくりを重点的に取り組みます。

○西部地域における展開方針

（安全な道路空間づくり）

具体的には、観光周遊ルートとなる国道 204 号をはじめ道路交通網の整備に取り組みます。特に国道 204 号については、鷹島肥前大橋の開通による交通量の増大が見込まれることからも、道路線形整備とともに、地域生活拠点や小中学校周辺における歩道の整備など安心して生活できる道路空間づくりを関係機関に強く働きかけます。

（観光・交流資源の磨き上げ、来訪者の利便性・回遊性の向上）

鷹島肥前大橋開通による来訪者に「肥前ファン」になっていただくためにも、物産館「ひぜん夢美咲」や周辺における既存の観光・交流資源、施設の磨き上げ、豊かな食材の活用による魅力向上を図ります。

また、アクセス道路や案内標示整備等による利便性・回遊性の向上を図り、鷹島肥前大橋を契機に、増加した交流人口の定着を目指した地域づくりを進めます。（⇒具体的取り組み案参照）

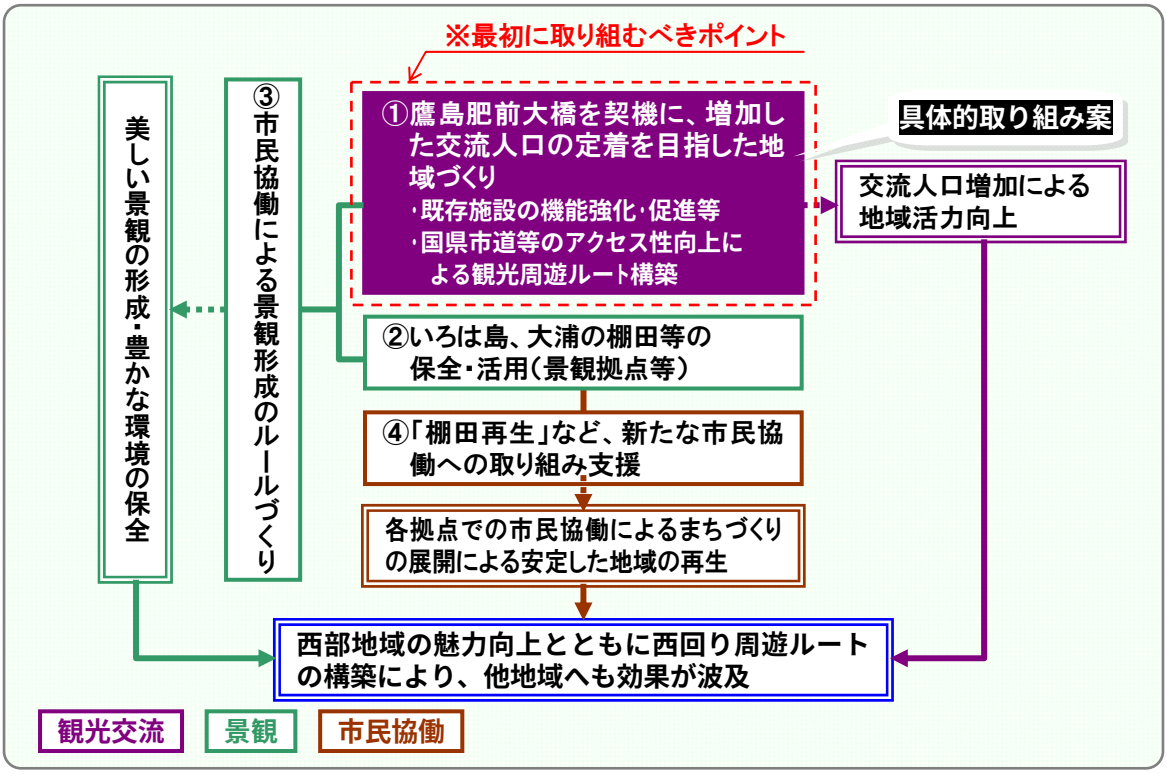
（市民協働による景観保全・活用）

景観拠点となるいろは島や周辺の大浦の棚田などの地域固有の景観資源の保全を図ります。特に、「大浦の棚田」などの地域を代表する風景については、今後も維持していくためにも南部地域の「蕨野の棚田」における市民協働による棚田の維持・保全事例を参考とした取り組みも検討していきます。

（その後の展開）

その上で、来訪者の回遊を促進する案内標示のデザイン統一や、屋外広告物規制などの景観形成のルールづくりを、市民協働により取り組みます。そうすることで、周辺での公共施設整備や民間開発などに対し、景観や環境への配慮を意識させ、美しい景観の形成、豊かな環境の保全を図っていきます。

このような取り組みにより、都市部住民をひきつける美しい自然環境や地域資源が保全・活用され、西部地域の魅力向上とともに西回り周遊ルートが構築され、他地域へもその活力が波及していくことが期待されます。



具体的取り組み案　**鷹島肥前大橋を契機に、増加した交流人口の定着を目指した地域づくり**

（基本的な考え方）

- 西部地域には、いろは島をはじめ、大浦の棚田や遠見番所公園、白糸の滝など多数の観光・交流資源が存在しています。しかしながら、それらへの案内標示不足やアクセス道路未整備等により有効に活用されていない状況です。そのため、これら既存の観光・交流資源を活用した地域振興を図っていく必要があります。
- 特に、鷹島肥前大橋開通により広域圏からの交流人口が増加することが期待されることから、これを契機に来訪者の受け入れ体制整備を進めることで「肥前ファン」の増加を目指し、増加した交流人口の定着による地域活力向上を図ります。

（具体的取り組み案）

①国道 204 号をはじめ観光・交流資源へのアクセスルートとなる道路交通網整備や案内施設の充実の早期実現を目指します。

②既存観光・交流資源、施設を磨き上げて観光客の増加を促進します。

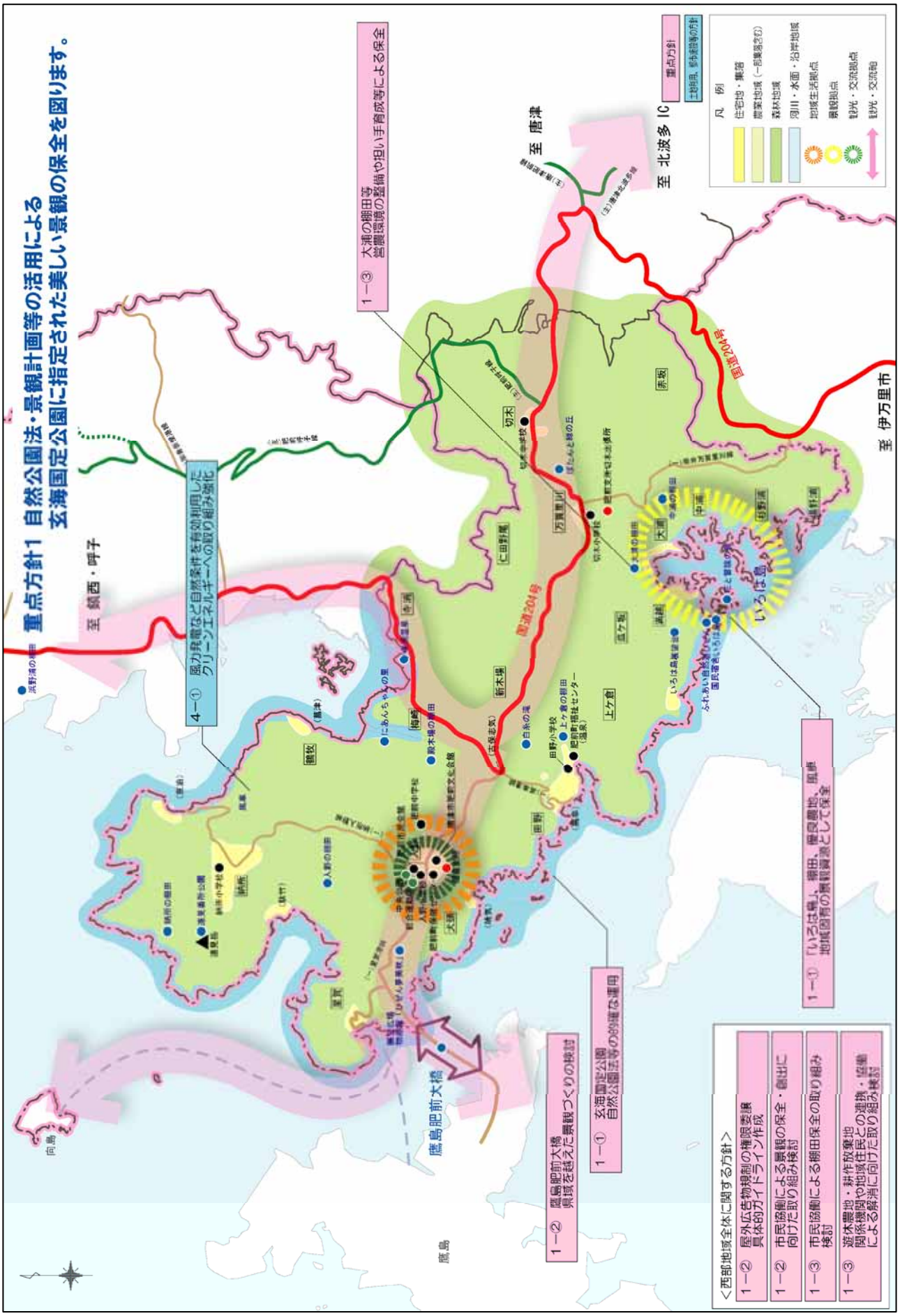
- ➢ いろは島国民宿舎やぼたんと緑の丘、物産館「ひぜん夢美咲」、食材の活用など

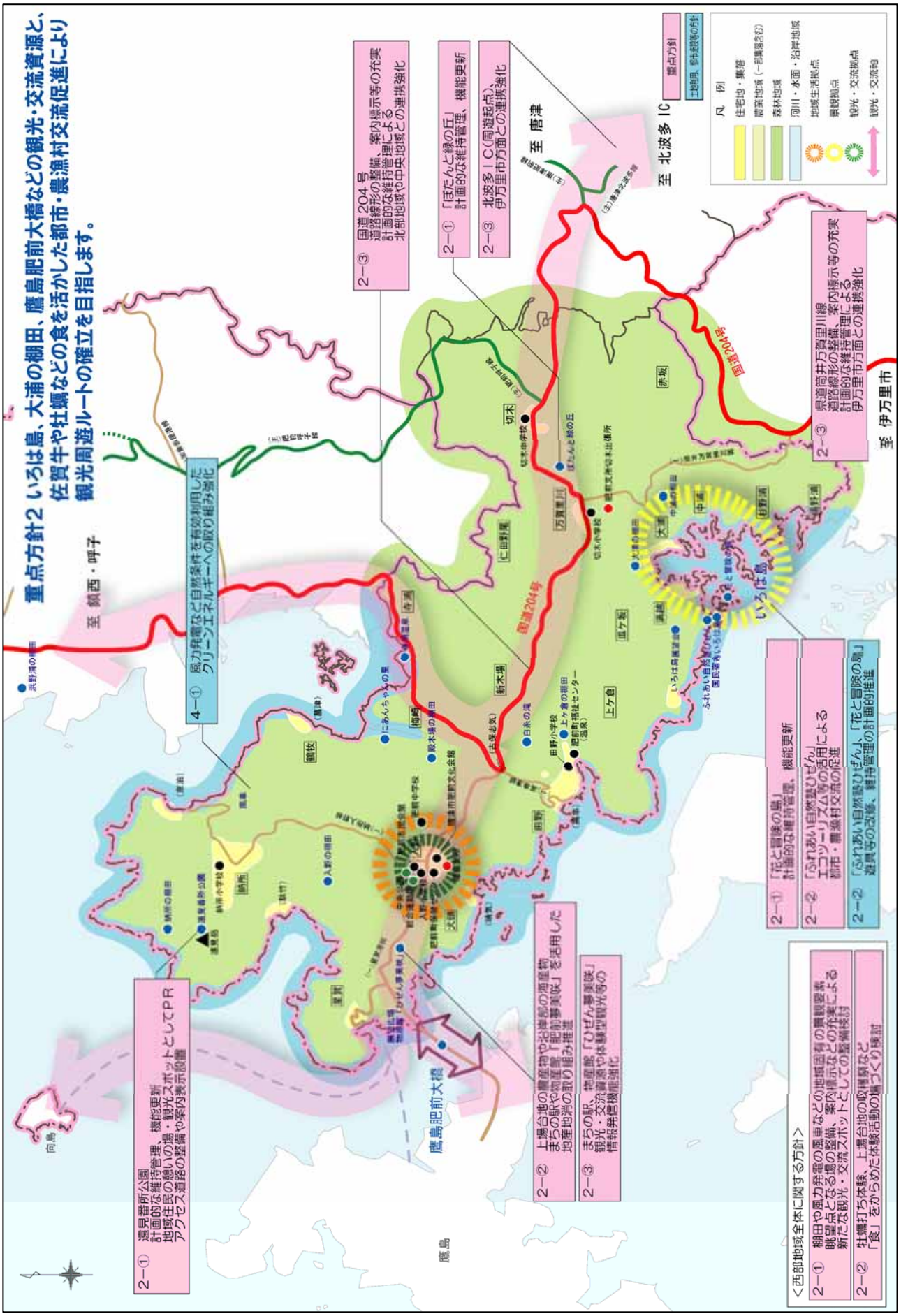
③長崎県松浦市鷹島との県境を超えた交流、景観づくりを促進します。

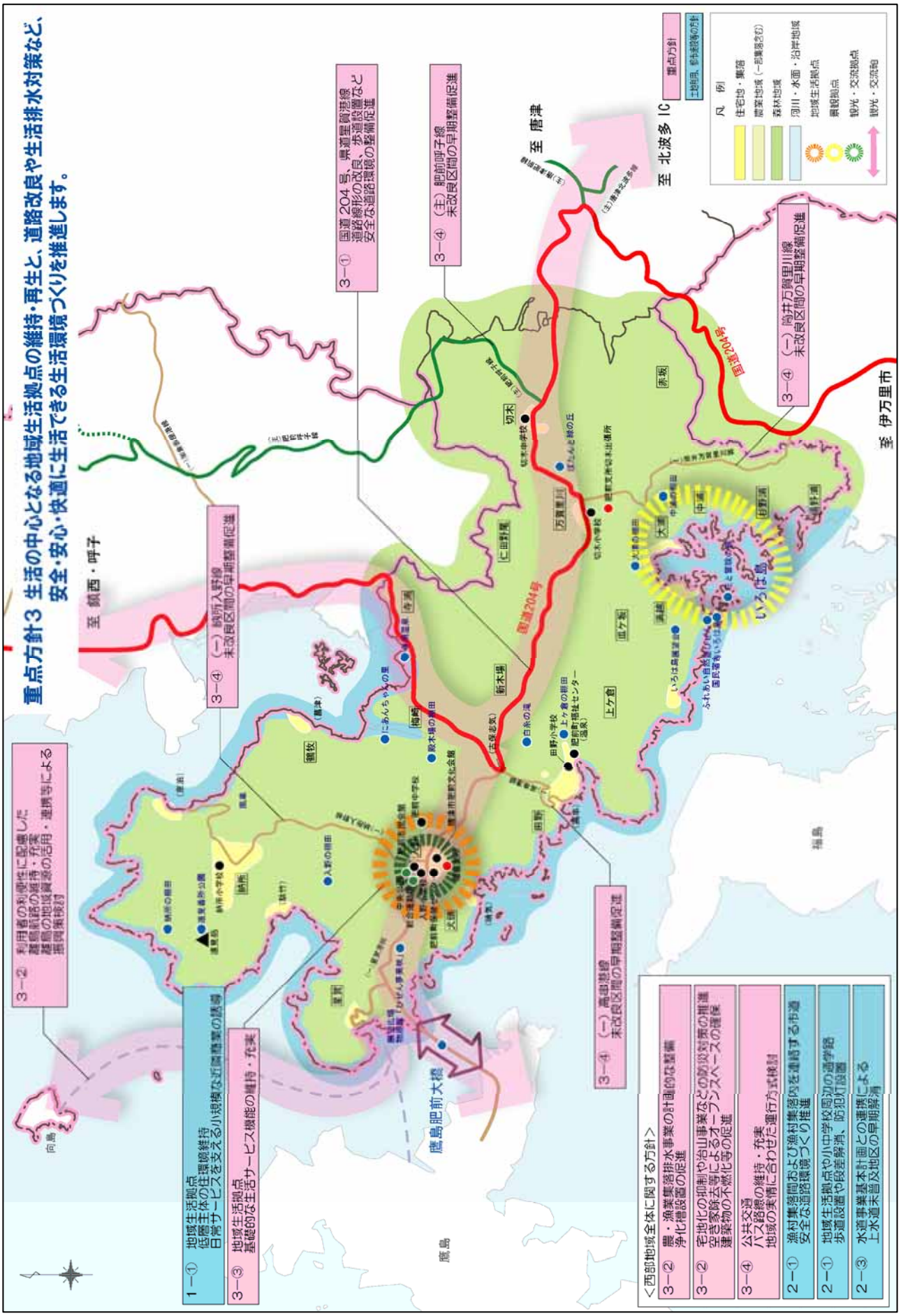
- ➢ 白浜海水浴場、夕映キャンプ場、鷹島海中ダム、モンゴル村等の活用・連携など

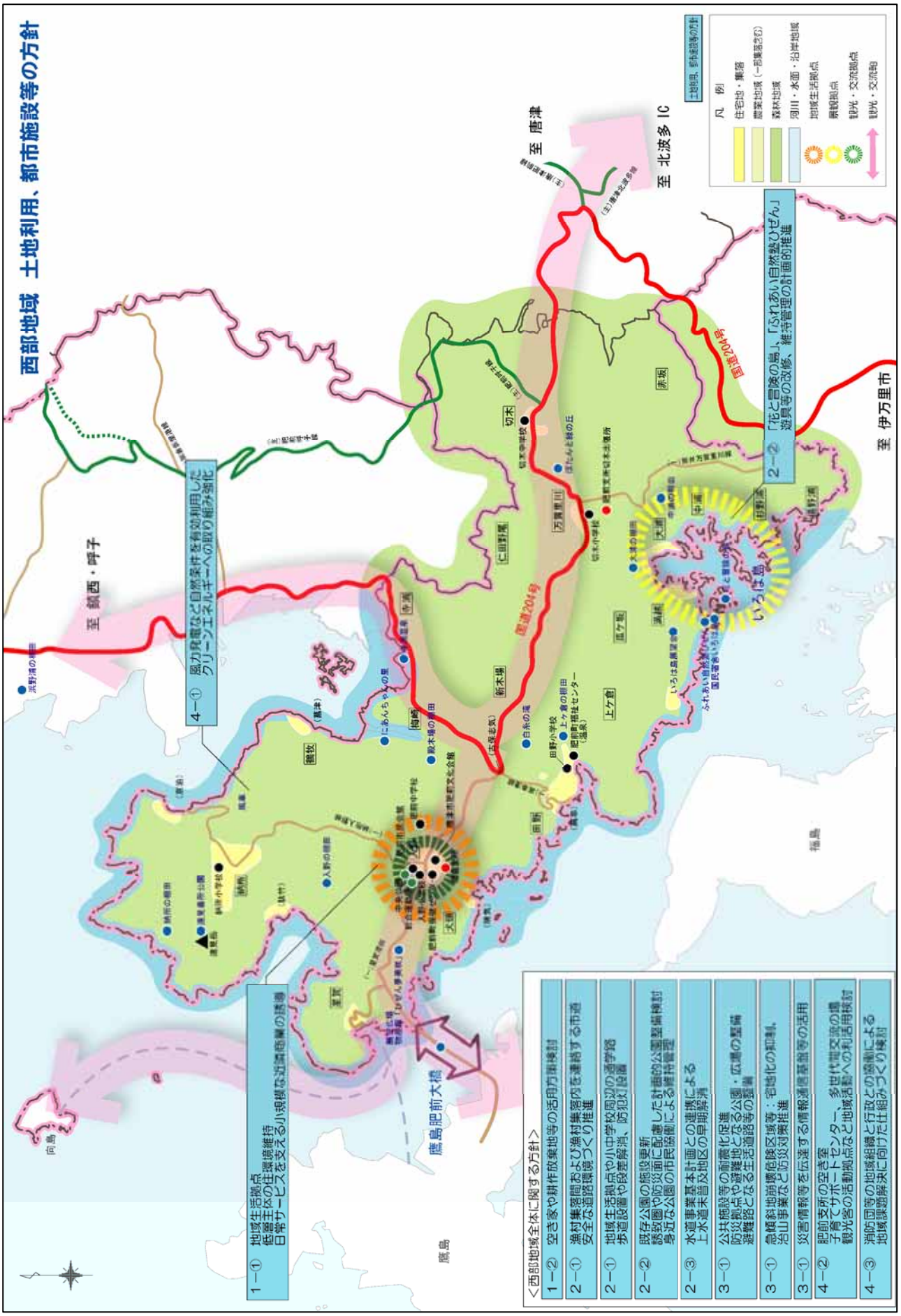
- このような取り組みにより、「肥前ファン」の増加を目指し、鷹島肥前大橋開通を地域振興に結びつけていきます。

▲鷹島肥前大橋（写真：唐津市 HP）


重点方針1 自然公園法・景観計画等の活用による
玄海国定公園に指定された美しい景観の保全を図ります。
至 鎮西・呼子
至 唐津
至 北波多 IC
至 伊万里市
国道204号
国道204号
1－③ 大浦の棚田等
営農環境の整備や担い手育成等による保全
4－① 風力発電など自然条件を有効利用した
クリーンエネルギーへの取り組み強化
1－① 「いろは島」、棚田、優良農地、風車
地域固有の景観資源として保全
1－② 鷹島肥前大橋
県域を越えた景観づくりの検討
1－① 玄海国定公園
自然公園法等の的確な運用
鷹島肥前大橋
鷹島
向島
凡 例
住宅地・集落
農業地域（一部集落含む）
森林地域
河川・水面・沿岸地域
地域生活拠点
景観拠点
観光・交流拠点
観光・交流軸
重点方針
土地利用、都市施設等の方針
＜西部地域全体に関する方針＞
1－② 屋外広告物規制の権限委譲
具体的ガイドライン作成
1－② 市民協働による景観の保全・創出に
向けた取り組み検討
1－③ 市民協働による棚田保全の取り組み
検討
1－③ 遊休農地・耕作放棄地
関係機関や地域住民との連携・協働
による解消に向けた取り組み検討


重点方針2 いろは島、大浦の棚田、鷹島肥前大橋などの観光・交流資源と、佐賀牛や牡蠣などの食を活かした都市・農漁村交流促進により観光周遊ルートの確立を目指します。
至 鎮西・呼子
至 唐津
至 北波多 IC
至 伊万里市
国道204号
鷹島肥前大橋
鷹島
向島
2−① 遠見番所公園 計画的な維持管理、機能更新 地域住民の憩いの場・観光スポットとしてPR アクセス道路の整備や案内表示設置
2−② 上場台地の農産物や沿岸部の海産物 まちの駅や物産館「肥前夢美咲」を活用した地産地消の取り組み推進
2−③ まちの駅、物産館「ひぜん夢美咲」 観光・交流資源や体験型観光等の情報発信機能強化
2−① 「花と冒険の島」 計画的な維持管理、機能更新
2−② 「ふれあい自然塾ひぜん」 エコツーリズム等の活用による都市・農漁村交流の促進
2−② 「ふれあい自然塾ひぜん」、「花と冒険の島」 遊具等の改修、維持管理の計画的推進
2−③ 国道204号 道路線形の整備、案内標示等の充実 計画的な維持管理による 北部地域や中央地域との連携強化
2−① 「ほたんと緑の丘」 計画的な維持管理、機能更新
2−③ 北波多ＩＣ(周遊起点)、伊万里市方面との連携強化
2−③ 県道筒井万賀里川線 道路線形の整備、案内標示等の充実 計画的な維持管理による 伊万里市方面との連携強化
4−① 風力発電など自然条件を有効利用した クリーンエネルギーへの取り組み強化
＜西部地域全体に関する方針＞
2−① 棚田や風力発電の風車などの地域固有の景観要素 眺望点となる場の整備、案内標示などの充実による 新たな観光・交流スポットとしての整備検討
2−② 牡蠣打ち体験、上場台地の収穫祭など 「食」をからめた体験活動の場づくり検討
凡 例
住宅地・集落
農業地域（一部集落含む）
森林地域
河川・水面・沿岸地域
地域生活拠点
景観拠点
観光・交流拠点
観光・交流軸
重点方針
土地利用、都市建設等の方針


重点方針3 生活の中心となる地域生活拠点の維持・再生と、道路改良や生活排水対策など、
安全・安心・快適に生活できる生活環境づくりを推進します。
3−① 国道204号、県道星賀港線
道路線形の改良、歩道設置など
安全な道路環境の整備促進
3−④ (主)肥前呼子線
未改良区間の早期整備促進
3−④ (一)岡井万賀里川線
未改良区間の早期整備促進
3−④ (一)納所入野線
未改良区間の早期整備促進
3−② 利用者の利便性に配慮した
離島航路の維持・充実
離島の地域資源の活用・連携等による
振興策検討
1−① 地域生活拠点
低層主体の住環境維持
日常サービスを支える小規模な近隣商業の誘導
3−③ 地域生活拠点
基礎的な生活サービス機能の維持・充実
3−④ (一)高岡港線
未改良区間の早期整備促進
至 鎮西・呼子
至 唐津
至 北波多 IC
至 伊万里市
国道204号
鷹島肥前大橋
鷹島
向島
福島
重点方針
土地利用、都市建設等の方針
凡 例
住宅地・集落
農業地域（一部集落含む）
森林地域
河川・水面・沿岸地域
地域生活拠点
景観拠点
観光・交流拠点
観光・交流軸
<西部地域全体に関する方針>
3−② 農・漁業集落排水事業の計画的な整備
浄化槽設置の促進
3−② 宅地化の抑制や治山事業などの防災対策の推進
空き家除去等によるオープンスペースの確保
建築物の不燃化等の促進
3−④ 公共交通
バス路線の維持・充実
地域の実情に合わせた運行方式検討
2−① 漁村集落間および漁村集落内を連絡する市道
安全な道路環境づくり推進
2−① 地域生活拠点や小中学校周辺の通学路
歩道設置や段差解消、防犯灯設置
2−③ 水道事業基本計画との連携による
上水道未普及地区の早期解消


西部地域　土地利用、都市施設等の方針
1－①　地域生活拠点
低層主体の住環境維持
日常サービスを支える小規模な近隣商業の誘導
4－①　風力発電など自然条件を有効利用した
クリーンエネルギーへの取り組み強化
2－②　「花と冒険の島」、「ふれあい自然塾ひぜん」
遊具等の改修、維持管理の計画的推進
凡　例
住宅地・集落
農業地域（一部集落含む）
森林地域
河川・水面・沿岸地域
地域生活拠点
景観拠点
観光・交流拠点
観光・交流軸
土地利用、都市施設等の方針
至　唐津
至　北波多 IC
至　伊万里市
至　鎮西・呼子
国道204号
国道204号
鷹島肥前大橋
鷹島
向島
福島
いろは島
切木
赤坂
仁田野
万賀里川
中浦
大浦
田野浦
新木場
上ケ倉
広ケ坂
浦崎
寺浦
梅崎
鶴牧
田野
大橋
室賀
納所
入野
にあんちゃんの里
殿木場の棚田
白糸の滝
田野小学校
上ケ倉の棚田
肥前町福祉センター（温泉）
いろは島展望台
ふれあい自然塾ひぜん
国民宿舎いろは島
入野の棚田
納所の棚田
浦見島所公園
鷹島肥前大橋
＜西部地域全体に関する方針＞
1－②　空き家や耕作放棄地等の活用方策検討
2－①　漁村集落間および漁村集落内を連絡する市道
安全な道路環境づくり推進
2－①　地域生活拠点や小中学校周辺の通学路
歩道設置や段差解消、防犯灯設置
2－②　既存公園の施設更新
誘致圏や防災面に配慮した計画的公園整備検討
身近な公園の市民協働による維持管理
2－③　水道事業基本計画との連携による
上水道未普及地区の早期解消
3－①　公共施設等の耐震化促進
防災拠点や避難地となる公園・広場の整備
避難路となる生活道路等の整備
3－①　急傾斜地崩壊危険区域等：宅地化の抑制、
治山事業など防災対策推進
3－①　災害情報等を伝達する情報通信基盤等の活用
4－②　肥前支所の空き室
子育てサポートセンター、多世代間交流の場
観光客の活動拠点など地域活動への利活用検討
4－③　消防団等の地域組織と行政との協働による
地域課題解決に向けた仕組みづくり検討